



ソウルから一時間半、成田から三時間
 济州島は韓国人に最も人気の観光地である。ソウルからは飛行機で一時間半ほどで、釜山からの船便もある。新婚旅行の名所でもある。日本人にとっては、何といてもその近さが魅力だ。成田からの直行便で三時間ほどで、時差もない。また日本人観光客が多いだけに、日本語も通じやすい。
 日本語が通じやすい理由は、この島には意外なほど日本での生活経験者が多いことだ。大阪の鶴橋近辺や



济州島のシンボル漢拏山

日本から最も近い外国のリゾートアイランド。それが济州島だ。日本からの観光客も多いため、日本語が通じるのもありがたい。島の中央にそびえる漢拏山(ハルラサン)、そして東部、西帰浦(セオンポ)、中文(チュンゴン)と趣の違う見どころがある。
 济州島は韓国の南海岸から約九百六十キロ離れた、韓国最大の島だ。面積は千八百五十四平方キロ、人口は五十五万人である。
 韓国の最南端に位置する火山島で、高知県や福岡県とほぼ同じ緯度にある。付近を暖流の対馬海流が流れているため、韓国では最も気候が温暖であり、「韓国のハワイ」とも呼ばれる。
 しかし冬になると北西季節風の影響や地形的な理由で、風が強く、島の南北の気温差が大きいので注意が必要だ。冬には、漢拏山の北側の济州市は東京と同じくらいの寒さになり、年に一、二回まとまった雪が降る。その一方で、南部の西帰浦市は温暖で、冬でも日中の気温は十度以上になり、高知県や宮崎県北部のような気温になる。温暖な気候のため、韓国唯一のミカンの産地だが、その畑は西帰浦市に集中している。

東京の荒川区三河島などには济州島出身者が多く、いまでも縁者を頼って日本へ渡って来る人が少なくない。济州島の人たちは、いわゆる「共同体」意識が強く、古いといえば古い、親戚縁者、郷村意識が強いのである。
 济州島中央にそびえる漢拏山は高さ千九百五十メートルで、韓国最高峰の山である。その名は「天の川をつかむことができるくらい高い山」という意味だ。一〇〇七年に噴火し、少なくとも十五カ所に溶岩が流れた跡が残っている。頂には噴火口の跡にできた湖が万古の静寂をたたえている。頂上までは往復六、七時間ほどで、登山客が絶えない。
 日本の山岳と比べて低いが、なめてはいけない。かつて民俗学者の泉靖一は、京城帝大の学生時代、友人とこの山に登り、友人を遭難で失ったことがある。彼はそんなことから、専攻を国文学から济州島研究に変えたといわれている。
 島の東部の城山日出峰(ソンサンイルチユルボン)に足を延ばし、急傾斜の石段を登る。一見岬のように見えるが、十万年前に海底噴火によってできた火山で、標高百八十二メートルある。直径六百メートルある現在の火口は約五千年前にでき